

英彦山聖域復元プロジェクト広報 第2号

2025年11月9日

第4回の活動を報告をいたします。今回の参加者は9名で、今までで最多となりました。

別所の駐車場に集合後、直心庵に移動。持ちものなど準備を整えて9:20出発しました。各自のペースで頂上を目指し、最速の人は2時間程度で山頂に到着しました。上宮前を通過して、一度南岳との鞍部に降り、昼食後に活動開始しました。



【直心庵出発】



【バードライン分岐付近】



【中岳と南岳の鞍部】

ここから画面右奥が現場

現場に到着すると、ほとんどの方があまりの惨状に目を見張ります。いったい何十年間ここにゴミを投げ捨て続けたのか。投げ捨てた先がどんな状態になっているのか想像ができないなかったのか。良心の痛みはなかったのか。憤りを通り越して悲しくなります。



さっそくゴミの回収を始めました。たちまち回収袋がいっぱいになります。ボロボロにさび付いた空き缶がほとんどで、弁当ガラやビニール袋が混じります。また碎けたビール瓶やラムネの瓶も突き出しているので、ケガには厳重に注意する必要があります。

一方、ペットボトルはまったく見当たりません。ゴミが捨てられた時期がペットボトルの登場以前であったことがわかります。

拾っても拾っても切りがないというのが実情で、大きな徒労感を覚えます。しかしどとにく地道にこの作業を繰り返すしか復元する方法はありません。

ときおり腰を伸ばすと、美しい原生林が眼下に広がっています。この場所をかつての清浄な聖地にもどさねばならないという強い使命感を覚えます。



ゴミ拾いが終わると、今度は搬送作業です。

中岳・南岳の鞍部までまずは持つていき、登山道の邪魔にならないように積み上げていきます。袋の重さは一個が 10 キロ程度で、かなりの重さがあります。一人が担いで降るのはせいぜい二個までで限界です。また、鋭くとがったガラス瓶などは土嚢袋に入れて担ぐと、誤って転倒した際に大怪我をする危険もありますので、ガラスの破片は工具入れのプラスチックの箱に入れるようにしていますが、いっぱいに詰め込むと 12 、 3 キロにもなります。



【写真右下の黒い箱は空き瓶搬送用の箱】



【今回ご協力いただいた方々】

左の写真は下界へのゴミ搬送です。一人一個ずつ土嚢袋を背負って約2時間の登山道を下ります。9人では拾ったゴミを全部降ろすことができません。ゴミをいかにして下界に降ろすのかが、現在の最大の悩みです。

別所の駐車場までゴミを降ろしたら、分別作業が待っています。燃えないゴミは添田町指定の赤い袋に、燃えるゴミは緑の袋に仕分けして、所定の場所へ出しておくと、町の方で回収してくれることになっています。

次回の活動は11月22日(土)です。多くの方々のお力添えをお願いいたします。 文責：佐々木英治

